オージー・コーポレーション・インディア

五代儀純一MD

独自性の高い事業を構築

オー・ジーは、2023年始動の長期経営計画VISION2033およびインド東南アジア諸国連合（ASEAN）を注力エリアと位置づけ、製造・販売を含む複合的な機能を生かした現地主体の事業創出などオリジナリティーの高いビジネス構築を目指す。

現地法人であるOG CORPORATION INDIA（五代儀純一MD）は、インドでの70年にわたる歴史を継承したモノづくり・トレーディングの機能を生かし、より現地に根差した事業構築を推進する。

化学品製造の強い基盤を持つインドは、世界的なチャイナプラスワンの需要に対してプレゼンスを向上させており、20年以上の歴史を持つグループ製造会社MELOG SPECIALITY CHEMICALSやその他製造パートナーとのネットワークを活用し、オー・ジーとして強みを持つ高機能樹脂モノマー、各種中間体受託製造力などを通じより高い品質要求レベルの製品供給を質・量ともに拡大中。

さらに現地関連会社ARVIND OG NONWOVENsでは、22年に二ードルパンチ不織布の製造ラインを増強し、印・欧米・中東市場向けパワフィルター用途に販売量を加えさせている。

今後発展が期待されるモビリティ分野、エレクトロニクス分野、ライフサイエンス分野でも事業展開を狙う。モビリティ分野では合成皮用工程紙販売を足掛かりに、合成用樹脂や機能添加剤の販売を拡大させており、将来的に自動車内装分野での部品納入を目指す。エレクトロニクス分野では、急速な立ちがり予想される全専体や2次電池セルの国内製造に向け関連資材についてグローバルサプライチェーンを活用した事業展開を図る。ライフサイエンス分野では医薬品原料・中間体の取扱の強化、今後大きな伸長が期待される。バイオ分野への参入も進める。

長年ムンバイのみであったビジネスを拠点を追加し、自動車関連をはじめより広い地域でインド産業のさらなる発展に対応するべく営業体制を強化する。

三菱ガス化学トレーディングムンバイ駐在員事務所

荒木祥治所長

年内に現法設立を計画

三菱ガス化学トレーディングはインドビジネスの拡大を図る。年内には三菱ガス化学グループ内において共同でインド現地法人設立を計画しており、化学品原料の調達や中東・アフリカ向け輸出も含めた事業拠点としてグループの収益力強化に注然していく。

2019年に（旧）三菱ガス化学トレーディングムンバイ駐在員事務所（荒木祥治所長）を設立。以降、ボストチャイナの重要な拠点としてインド国内のみならず南アジア・中東・アフリカで顧客やメーカーの調査、マーケティングサポートを担ってきた。

今年、別途現地法人を設立し、グループ外およびパッケージ製品、自社グループ向け原料などの輸出入を行う方針。医・農薬中間体、自動車・インフラ・建設分野向け塗料・接着剤、「日用品・化粧品向け香料分野におけるモノー・溶剤・添加剤や包装材料・樹脂・電子材料関連製品のインド向け輸出や日本向け各種製品の取り扱いを中心とする予定。諸環境所はムンバイ、まず安価な労務費やユーティリティーコスト、顧客のアジアシフトの観点から、クルー内製品の委託も含めた現地生産を検討する。

荒木祥治所長は「コロナ禍なくてレギュラーな環境があったが、やっと現法設立のめどが立った。化学品・包材・樹脂・電材関連品の取り扱いに加え、インド製グリーンケミカルや天然製品、バイオ由来製品を日本へ供給する」と展望を語った。

日本の経済・政治関係が良好なことから、事業継続計画（BCP）の観点からも重要拠点に位置づけ日本向け原料の輸出を拡大する。特にクジャラート州は中東の原油産出国から距離が近いことから、今後アジアにおける有力マーケティング・ハブとなるべく生産拠点となる。そのほか三国間貿易にも取り組むと同時に、南アジア・中東・アフリカ関連ビジネスのハブとしての機能も拡充させる。

三洋貿易インド

阿部信二社長

車向け中心に収益基盤強化

ゴム、化学品、産業資材の3分野を軸に展開している三洋貿易インド（阿部信二社長）。高成長を続ける自動車産業に向けた収益基盤をさらに強固なものとするとともに、インド産の有望製品の輸出や非自動車分野での販路開拓などにも力を入れ、持続的な事業成長を目指す。

主力のゴム関連は、NBRやエピクロルヒドリンゴム、ラテックスといった合成ゴムを取り扱い、インドの自動車サプライチェーンに向けて安定的に製品を供給することが基本方針。また、インド生産品の海外展開にも取り組む。

地場企業ヌタリペトロケミカルズが手がけるポリプテンを輸出しており、さらなる拡販を狙う。

同国の自動車生産は年率2ケタの伸びを見せており、増加見合いで事業拡大が期待できる。一方で、インド政府が後押しする部品・素材の現地調達化にも注目し、顧客要望に応えていく。

自動車分野以外のビジネス育成も進む。放熱材料として使われる球状アルミナや球状シリカを取り扱っており、家電を含むエレクトロニクス関連にも注力していく。

化学品では、新規商材の提案や新たな分野の顧客開拓に注力している。これまで海外調達の接着剤や切削油向け防錆剤などを受注につなげてきた。直近は自動車内装関連の商材でも新規の受注を獲得した。

輸入販売の扱い商材が拡大していることもあり、首都デリー近郊のグルガオンへムンバイ、バンガロール、グジャラートに2ストックポイントを配置。4カ所体制で製造業の集積地をカバーしている。

自動車関連の産業資材は、シートベルトリマインダー（未着用警報装置）に加え、今後予想される高級車種の拡大によりランバーサポートについて商機が増えるとみている。

ＣＢＣコーポレーション・インディア

ダルケッシュ・シャルマ社長

半導体・電子分野も拡大

CBCの現地法人CBCコーポレーション・インディア（ダルケッシュ・シャルマ社長）は、2023年にCBCの事業譲渡で売上高が前年実績を上回った。特殊化学品を中心とした成長戦略に拍車をかけており、医薬品・農薬分野に加え、半導体・電子分野でも事業を拡大している。

同社では、インドの製造業を基盤に、インドから日本をはじめ世界に輸出することを成長の原動力としてきた。主力の医薬品・農薬分野ではバリューチェーンを構成する原料から中間体、原薬、製剤のそれぞれにおいて、製品の輸出入はかりでなく受託生産にまで踏み込んで事業を展開している。

インドは原材料はかりでなく、最終製品の生産国としても存在感を高めている。CBCインディアでは昨年、インドから医薬品の最終製品の輸出を開始した。同時に、インドの最終製品メーカーへの原材料販売も手がけ、売上高に占める輸出比率の拡大につながっている。「当社はインドの製薬業界でおよそ500社取引がある。非常に優勢なポジションにあり、販売と調達の両方を行っている」（シャルマ社長）インドではスマートホンなど電子分野でも最終製品の生産が拡大しており、CBCは化学品や部品などの原材料を輸入販売している。

インドの製造業で同社が注目しているのが半導体・電池分野。昨年、電池分野での事業開発を担う組織を立ち上げ持つ人材を登用。電池関連技術で博士号を取得した研究者や川下市場における組むインド企業30社以上と接触し、電池セルの調達に向けた検討している電池製造のコンサルティングも行っている。投資も行なっている。「セルの製造や原材料に関する知識が豊富な日本企業と協力していく。インドから日本への輸出を検討している電池材料もある。（同）。同時に、製品の取り組みを、半導体でも推進していく。「ビジネス慣習含め、日本とインドの両方を知る当社が架け橋となる（同）。

三洋ライフマテリアル

阿部光秋常務取締役

新規案件の上積みを狙う

三洋貿易グループの三洋ライフマテリアルは、原薬や医農薬・ファインケミカル向け中間体の輸入ビジネスを展開している。顧客サイドでは、環境規制や地政学的リスクを背景に調達先の多様化が進んでおり、インド品への注目が高まっている。同国に強みを持つ同社では「ファーシングスキル（調達能力）のフル活用で新規案件の上積みを狙う」（阿部光秋常務取締役）方針を掲げる。代替需要の獲得や、新規性に優れた製品提案に加え、グループ拠点とも連携し、販売拡大を進める。

同社は医薬原料、精密化学品、化成品、接着の4事業部で、ビジネスを行う。インドからの原薬・中間体調達に強いNKSコーポレーションが統合して発足した経緯を持つ。インド品は、旧アスコのビジネスを引き継ぐ医薬原料・精密化学品での取り扱いを主軸とする。現地サプライヤー100社超との密接な協力関係を強みに、高品質でコスト競争力に優れる多様な商材を扱う。アフター・コロナのなか、川上産業にテコ入れするインドの国策や、顧客サイドの中国品からの代替需要もあり、事業成長に手応えを見せる。

医薬原料では、原薬・中間体が好調で、汎用性が特性上「顧客とメーカーのマッチング」に注力。インドのカスタム対応メーカーとのネットワークを拡大し活用する。現地商社や受託製造の強みを活かし、品質保証の確保や受託製造のコーディネートも強化する。

精密化学品は、各種機能化学品のほか、シュウ酸、イソプロピルメチルフェノール（外観規対応）などの汎用品にも注力。また特殊用途の香料原料、フェニル酢酸などニッチ品も具体化を急ぐ。また日本国内で積極しての展開を模索するほか、漁業飼料用などの添加物なども拡販する。

顧客対応力も強化中。顧客ニーズ見合いの品目は直交、汎用品では在庫販売に向けた倉庫の確保と、棲み分けを行い事業競争力を強化する。

ＫＩＳＣＯトレーディング・インディア

高橋尚志社長

現地企業との連携強める

KISCOトレーディング・インディア（高橋尚志社長）はインドの経済成長に合わせ、新たなビジネスを作り出していく。主力のモビリティ分野では、従来の商社・在庫販売機能だけでなく、インド現地企業との連携を進めることで、未踏顧客や川下市場により近い立場を持ち、新たな販売経路の獲得、また、拡大を図っていく。

さらには新たな事業の柱としてヘルスケアにも参入し、市場変化に左右されないポートフォリオの確立を図る。

同社はモビリティ・化学品、電気電子、生活産業の4領域を軸にインド事業を展開している。2023年度の業績は成長市場である4輪車、2輪車向市場がけ引し、順調な推移を見せた。現地のT1e r1、2のサプライチェーン（SC）に入り込み、インドのモビリティ市場に参入している。

本年度中のミッションの一つにインド現地企業等との提携による、メーカー機能獲得から、商社機能・バリューの向上を図っていく。高橋尚志社長は「成長戦略の中で優先順位の高い分野。当社では初めての試みだが、メーカー機能獲得から、従前からの商社市場で高い価値を得られるビジネスにしたい」と期待を込める。

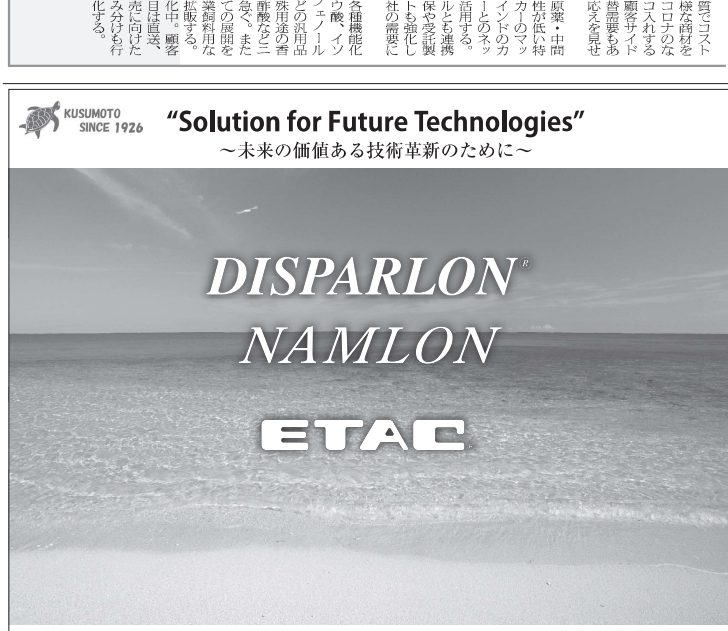
自動車分野以外で新たなビジネスの柱に据えるのは、医薬ビジネス。コロナ禍以降、複数国からの調達ニーズも増えており、日本、または、その他海外へ輸出する。将来的には、モビリティ分野以外で、同社の実績を支える事業に育てたい。

現在、インド政府が取り組む半導体産業では、グルグラム・チェンナイ・バンガロールの3カ所の在庫拠点をフル活用し、同産業のインフラに貢献、また、グループとして強みを持つ電子関連材料分野での基盤を作かし、大手携帯電子のインド拠点が手がける携帯電話生産をかかわるSCへの参入も引き続き行っていく。

このほか生活産業ではコンセント周りなど日用雑貨の合成樹脂を筆頭に取り扱う。建設ラッシュが続くインドで安定した収益地に寄与する。

KUSUMOTO SINCE 1926

"Solution for Future Technologies"
～未来の価値ある技術革新のために～



楠本化成株式会社

本社：東京都千代田区内神田1-11-13 楠本ビル
TEL：03-3292-8685
WEB：https://www.kusumoto.co.jp

弊社製品
塗料及び印刷インキ用添加剤
環境試験機／信頼性試験

主要輸入品目
King社：塗料用酸硬化触媒／改質剤
石油・潤滑油用添加剤
Tolsa社：セピオライト

蝶所は人間力

もしかすると、あなたの商社のイメージを
変えてしまうかもしれないし、
もしかすると、あなたがずっと待ちつづけた
ビジネスパートナーかもしれない。
枠にとらわれず、既成概念を飛び超えていく。
無限に広がる繊維・化学品・機械の可能性の中から、
あなたにとって、社会にとって、そして世界にとって、
最高の価値を提供していきます。

私たちは蝶理です。

CHORI
蝶理株式会社